

第62回那覇地区中学校新人軟式野球競技大会要項
(第26回沖縄海邦銀行杯争奪県中学校軟式野球大会那覇地区予選会)
(第36回全日本少年軟式野球大会沖縄県予選会)

1. 主催 那覇地区中学校体育連盟
2. 共催 沖縄県教育委員会、那覇市教育委員会、浦添市教育委員会、久米島町教育委員会
3. 後援 那覇地区中学校校長会、那覇地区PTA連合会、沖縄県野球連盟那覇支部
4. 期 日 平成31年1月26日(土)、27日(日)、2月2日(土) 予備日2月3日(日)
5. 会 場 平成31年1月26日(土) 9:00(1回戦) 仲西中学校(), 浦添中学校(), 神森中学校(), 金城中学校()
平成31年1月27日(日) 9:00(2回戦・準々決勝) 仲西中学校(3)、浦添中学校(3)、神森中学校(3)、金城中学校(3)
平成31年2月 2日(土) 9:00(準決勝・決勝戦) 仲西中学校(2)、浦添中学校(1)
平成31年2月 3日(土) 予備日 ※久米島がベスト4に勝ち上がった場合はここで準決・決勝戦を行う
6. 参加資格 (1) 沖縄県内の中学校に在籍する1・2年生の生徒で編成されたチームで各地区の代表となったチームとする。なお、1校1チームとする。
(2) 県・地区中体連の規定及び各学校の規則に沿った中学生らしい身なり・容姿であること。
(3) 硬式ボールを使用球としている団体に所属しているチームとその構成員の出場は認めない。
(4) 1チームは、選手20人、記録員2人、監督1人、コーチ2人の計25人とする。
(5) 選手の引率は、出場校の校長・教員とする。監督については校長・教職員(常勤)とする。教職員以外のコーチについては、学校長の認めた者で、地区・県に登録された者とする。但し、ベンチ入りについては1名のみとする。
(6) 参加資格の特例を認める。「開催基準8(6)複数合同チーム」(県に準ずる)
7. 企画運営責任者 那覇地区中体連野球専門部
石原孝之(神森)、一安裕次郎(城北)、安里博文(安岡)、照屋茂伸(首里)、前川克志(沖尚)、仲座康一(上山)
下地雄大(鏡原)、比嘉佑(松城)、久高陵太郎(那覇)、金城達貴(寄宮)、眞崎陽介(神森)、金城哲夫(浦西)
仲村隆太(浦添)、島袋剛(首里)、仲松一星(寄宮)、根間豊(真和志)、大浜淳一(仲井真)、比嘉英(港川)
比嘉和樹(安岡)、山里毅(浦添)、座波清匡(仲西)、花城勉(金城)、仲本政毅(小禄)、米田幹(松島)
豊見山純平(石嶺)、渡嘉敷光範(仲井真)、足立忠敬(神原)、名城磨男(久米島西)
運営委員 那覇地区中体連加盟校に所属する野球部全顧問
10. 競技規則 2018年公認野球規則及び全日本軟式野球連盟特別競技規則、大会細則を適用する。
投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、1日7イニングまでとする。ただし、タイブレーク方式の直前のイニングを投げきった投手に限り、1日最大9イニングまで投げるができる。タイブレークとなった場合に投げることで投手は、タイブレーク方式の直前を投げきった投手か、新たな投手(その日1球も投げていない選手)に限り、1日2イニングまで投げるができる。投球イニングに端数が生じたときの取扱いについては、3分の1回(アウト1つ)未満の場合であっても、1イニング投球したものと
して教える。
11. 大会規定 (1) トーナメント方式とする。
(2) 試合は7回戦とし、得点差によるコールドゲームは3回以降10点差、5回以降7点差とする。また、日没・降雨のコールドゲームについては全試合5回以降成立とする。なお、決勝戦にも適用する。
日没・降雨などで試合が成立しない場合は、特別継続試合(サスペンデッドゲーム)を適用する。
(3) 7回を完了して同点の場合は、タイブレーク方式とする。10回を完了しても決着がつかないときは、抽選で勝敗を決定する。ただし、決勝戦の場合は、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決定するまでタイブレーク方式を続行する。
※天候の都合で日程変更がある場合は、本部で協議の上、特別ルールを設定する。
10. 使用球 全日本軟式野球連盟公認内外ボールM号球とする
11. 組み合わせ (1) 平成30年12月7日(金)に浦添市立神森中学校コンピュータ室での監督会の席にて行う
(2) 抽選は、各学校の監督が行う。
12. 表彰 (1) 優勝チームには優勝旗及び賞状、準優勝・3位のチームには賞状を与える。
また、個人賞として、殊勲賞・敢闘賞・打撃賞を表彰する。
(2) 個人賞は決勝進出校から選出する。また、打撃賞に関しては規定打席
(1試合×2打席以上:1回戦から決勝戦までとする)に達している選手で、上位3人を選出する。
13. 参加申し込み (1) 平成30年11月25日(日)のスポーツグチ杯準決勝・決勝までに専門部長へ回答する。
(2) 大会参加申込用紙は那覇地区中体連野球専門部HPからダウンロードし、必要事項を入力し、プリントアウトしたものに学校長の捺印を受け、原本1部、コピー4部を、監督会・抽選会に地区専門部長に提出する
(3) 選手変更届は、那覇地区中体連野球専門部HPよりダウンロードし、校印を押印して、
原本1部、コピー4部を1月23日(水)16:45までに専門部長に提出する。
※大会冊子作成のため申込用紙ファイルを那覇地区中体連野球専門部HP宛(nahabaseball@yahoo.co.jp)に12月7日(金)16:45までにメールを送信すること
(4) ロジン1個を抽選会時に提出する。
14. その他 (1) チームの責任は、引率者において、一切負うものとする
(2) 大会出場中の選手の傷害は、大会本部において応急処置を行い、後は各学校で処理する。
(3) 今大会の上位4チームには、第59回沖縄県中学校春季軟式野球大会(3/2~3)への出場資格を与える。
(4) 第26回沖縄海邦銀行杯争奪県中学校軟式野球大会で優勝したチームの登録選手の一部は、第62回那覇地区中学校軟式野球大会での2重登録は認めない。

第62回那覇地区中学校新人軟式野球競技大会特別規則
(第26回沖縄海邦銀行杯争奪県中学校軟式野球大会那覇地区予選会)
(第36回全日本少年軟式野球大会沖縄県予選会)

1. 試合時間 (1) 試合は1時間30分と計算し、その60分前までには集合する。
(2) 連続試合の場合は間隔を30分とする。
2. オーダー交換 (1) オーダー用紙は大会本部の用紙を使用する。(4部提出)
(2) 攻守決定は、前の試合の4イニング終了時(第1試合は試合開始45分前)に監督立ち会いの上、主将が行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。
3. ダックアウト (1) 抽選番号の若い方が1塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動しない。
登録された監督、コーチ、選手、記録員以外のベンチ入りは禁止する。
(2) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止。
(3) ダッグアウト内でのメガホン使用は監督、コーチのみとする。(ベンチ内1個とする。)
4. シートノック (1) シートノックは、全試合後攻より行う。時間は5分間とする。
(2) シートノック時のみ、登録外の補助員(5名以内)を認める。なお、ユニフォーム、ヘルメットを着用すること。
(3) ノッカーは、ユニフォームを着用する。
(4) 1日で2試合を行うチームは、シートノックを1試合目のみ行う。なお、天候などにより球場を移動して試合を行う場合は、本部に確認の上、シートノックを行う場合もある。
※天候の理由でシートノックを行わない場合もある。その場合は試合時間を早めることもある。
5. 応援 (1) 選手・応援団は中学生としてふさわしい応援をする。(野次はつつむ)
(2) 応援は攻撃側のチームが優先に行う。
(3) 会場によっては太鼓による応援を禁止する場合もある。
6. 守備側と攻撃側のタイムの回数制限 (1) 捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は、7イニングで3度以内とする。
なお、延長戦(特別延長戦も含む)となった場合は、2イニングに1度行くことができる。
また、攻撃側についても同様とする。
7. 監督が投手の所へ行く回数の制限 (1) 監督が1試合に投手のところへ行ける回数は、7イニングで3回以内とする。なお、タイブレーク方式となった場合は、2イニングに1回行くことができる。
(2) 監督が同一イニングに同一投手の所へ2度目に行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。なお、他の守備についたときは、同一イニングには再び投手には戻れない。
8. 用具 (1) バットリング、トレーニングバット、スプレー(滑り止め)の使用を禁止する。
(但し、マスコットバットは使用可)
(2) 手袋・リストガードは、原則として「白」または「黒」を主にした高校野球対応の手袋を使用する。
(3) ストッキングの形をしっかりと統一する。
(4) 全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が完全に消えた用具は使用できない。
(5) 捕手は全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った捕手用ヘルメット・マスク・スロートガード・プロテクター・レガースとファウルカップを使用すること。また、打者・走者・次打者・ベースコーチ・バットボーイは全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った両側にイヤラップ(内側にはスポンジ等)のついたヘルメットを使用すること。
9. 試合のスピード化 (1) 打者・次打者・ベースコーチの4名は攻撃前のミーティングには参加せず、所定の場所に移動すること。
(2) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。
(3) 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
(4) 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。
(5) サイン交換は迅速に行うこと。打者はバッターボックス内でサインを見る。
10. その他 (1) 背番号は1～20番を使用し、原則としてポジション順とする。
(2) チームの選手(監督・コーチ含む)は同色、同形のユニフォームを着用する。グラウンドコートも同様とする。尚、監督・コーチのシューズについても同色とする。
コーチ(教職員)の服装は平服でもよい。また、記録員はユニフォームか制服とする。
(3) 選手交代は、監督が球審に告げること。
(4) 球場内においての試合前の練習はユニフォームを着用すること。
(5) 芝生保護のため各球場において正規のシートノック以外はスパイク以外で行うこと。
(6) 球場内のバッティング練習は、バント・トスバッティング(1対1)までとする。
(7) 試合中のアップ(キャッチボール)については2組(4名以内)とする。
(8) ランナーズコーチ及び投手が走者で塁に出た場合は、グラウンドコートを着用してもよい。
(9) 各チームのゴミは必ず責任を持って持ち帰る。最終試合の両チームは、ダッグアウト、スタンドを清掃する。
※ 大会参加に当たり、氏名、学校名、学年及び対戦結果、記録、画像等を主催者が発行・販売する大会冊子、出版物、ホームページ、及びマスコミへの公表に使用することがあります。